



目次

- △研究事項
 - 植栽地、樹種に就て
 - 杉植木苗圃の一例
 - 琉球孤島に於ける森
 - 林植物に就て(其六)
 - 挿木苗圃の事業日誌
 - 杭の原春より夏
 - 林友五月號を見て
 - 蘇溪音信
 - 測量日記
 - △八韻
 - △雜報
 - △員動靜
 - △十七回卒業生就職
 - △謝恩金贈呈報告
 - △林友代領收報告
 - △大正八年年度運動會決
 - △算報告
 - △大正八年年度校友會收
 - △支決算報告
 - △大正九年年度校友會算
 - △算報告

大正九年六月廿五日 第 二 百 八 十 八 號 每 月 廿 五 日 發 行 第 三 種 郵 便 認 可 號 四 十 四 年 六 月 十 四 日 (治 明)

植栽地と樹種に就て

西澤生

時運の進歩と共に林業志想大に發達し、各地植林を行ふもの、増加せるは、邦家のため慶賀の至りに堪へざる所である。然れども其の植栽せられたるを視るに、往々其の植栽地に對し、適當なる樹種を植付けざるもの、並に地力に應じ適當なる距離に植付けざるもの、又は之れが植付に用ひられし苗木の大きさ、並に發育力の異なるもの、若しくは植付後の撫育方法充分ならざるに依り、期望の最大利益を收め得ざるのみならず、折角の美譽も徒らに弊害を醸すの源となり、或は笑を後世に残すに至らざらんことを憂ふ、之れ天與の福祉を放棄する次第で林業經濟上誠に遺憾とする所である。今更ら言ふ迄もないが、林業は永き年限の後に始めて收益あるもので、中途に之を變更することは困難である。若し強いて之が變更せんとせば實に多大なる經費時間と多大なる犠牲を拂はねばならぬ。故に植林せんとする者は先づ實地の方法を講ずる事が必要にして、本邦數百の樹種中如何なる種類を撰擇すべきが、將又如何なる方法を以て之が植栽すべきか、例せば其の植栽せんとする土地につき充分なる調査を遂げ、之に適する樹種、植付、距離等を定め、苗木の大きさ及び發育良好なるものを撰び、其植栽後に手入保護に注意するにあら

ざれば十分なる利益を得られざるものである。就中植根地と樹種との關係は著しきものならんに依り本題に就て卑見を述べんに、さて植栽地に對し適當なる樹種を植付けざるとは、例へば一等林木なる扁柏杉等の充分生育すべき見込地に、二等林木なる松落葉松等を植付くとか、又は土地乾燥し地力充分ならざる土地に杉樹の如き濕氣多きを好み且つ地味良好なる所にあらざれば完全なる生育をなし能はざる樹種を植栽する等を言ひ、又土地は所に依り性質及び地力を異にするもので例へば甲所の林地は土壤の性質一般に緻密にして且つ濕氣に富むこと多きに反して、乙所の土地は輕鬆にして乾燥し易き等の差異あり、又一つの山中に於ても谷通は土性壤土質に近く水分の滲透良く且つ朽土に富むも、峰通に近づくに従ひ斯頂粘土質に變じ水分の浸透充分ならず、故に之に植栽すべき樹種も又其の土地の性質の異なるに依り一樣にすること能はず。元來樹木は各適地に於て始めて完全なる生育を遂げ得るものにして不適地に於ては如何に保護手入を施すと雖も完全なる生育をなさしめ得るものにあらず、尙換言すれば植林事業は主として氣候と土地との二つの天然力に依るものにも人力を加ふるを以て一つの土地に於て最良好なる成績を挙げんと欲せば、其の土地の性質地力を調査すると同時に、自己の植付んと欲する樹木の性質を究め、茲に始めて此土地には扁柏が

適するとか松が適するとかを判断し適當なる樹種を植栽するにあり。然るに世間には往々土地の性質は勿論、樹木の性質をも考へず、雜木伐採整地の地味良好なるにも拘らず松を植へるごか、殘餘の落葉松苗があるから彼地へ松落葉松を植へんなど、何等考慮することなく谷より峰まで全部松又は落葉松を植栽すること多からず、又同一の山腹地に於ても下部より上部まで全部杉或は松に適すると言ふ所は稀である、故に多くは下部又は地味良好なる凹地には杉を植へ、上部の稍々地味瘠悪なる所は松を植へることあり、尙例せば普通の場合には山麓は杉に適するも、中腹は扁柏に適し上部の大概土地瘠惡且つ風當り強き所にして、植栽に適せざる所は寧ろ雜木林の儘殘し置く方反つて利益あり、同一の山に於ても南面及び西面の地は概して多量の陽光を受くること多きに依り、本面及び北面に比し濕氣常に少なきを以て杉よりも松に適應するにあり

に最初の不注意の爲め伐期に於ける収入が約半分にも達せざる如き損失を招くことあれば、土地に對し樹種の撰定は必要且つ大切なる事である。そして何樹が如何なる土地に植ゆべきか又山の何所までは杉を植へて差支へなきか何邊よりは扁柏でなければならぬと云ふことは各土地にて一定せざるものなることは前述の如くにして、一つの山に於ても全く杉に適せざることあり、或は大部分杉に適することあり、或は地方甚だしく衰へ居る所において、杉は勿論扁柏にても見込なく、松なれば容易に生育すると云ふことあり、されば植栽地に關しては通常標準とする所は次の如し

樹に適する土地は暖帯に於て少しく南面又は東面に於て海岸を距ること遠からず、海面高も大ならざる所にして土質は粘土乃至壤土にして深く肥沃なる所ならざる可らず之を要するに造林事業は年一年に發達せんとする傾向に屬するは斯業の爲に堪へずる所なれども、前記の如き其の事業にして往々悲觀的成績を目撃するに至りては、轉々慨嘆に堪へざること、同時に其の實行に當りては豫め慎重調査に由りて將來遺算なき適當の方案を基礎として着手せられんこと肝要なることならんと思ふ(完)

福井縣に於ける杉挿木苗圃の一例 越 畔

- 一、苗圃概論 (一)位置福井縣今立郡上池田村大學水海 (二)面積實測四反八畝二歩但田地廿七枚 (三)方位北面又は東南東に位する山陰地に於て乾燥の恐れなく挿木苗圃として適地也 (四)土質概ね壤土にして植物生長に適す 形狀其他畧々正方形に近く但畦畔の長短により床は南北又は東西となせり 然かして用水の便に十分なり
- 二、事業概要 (一)期間大正八年五月三日より十日間 (二)出役當地は勞銀の高きと郡内今庄と是他の治水事業又は木地運搬等勞働事業多きに依る即ち女小兒にても日當二三圓を得る現狀にて本事業は恰も農繁期に向ひ

たる爲め益々應役者の欠乏を告げたるも幸いに篤志家吉田常規氏の犧牲的實力により最大九、五人迄を得たり。然かして吉田氏は實に本縣差木技術員にして府縣の依頼に應じて各地に出張實地指導に任じつゝあり

(四)地拵

イ排水溝 早春三月各田毎に數條の排水溝を設けて土質の適潤を保てり
ロ床面大低田地の南北に沿うて巾三尺長平均七八間の床面及右床の兩測に巾一尺宛々の溝を設け蓋し排水又は給水に便せんが爲めなり
ハ地均し 床面は溝の土を上げ深さ五六寸として土を細粉し以て挿付に差支なからしむ
ニ泥粘り法 巾四尺以上六尺位の床面を作り土質は全部水にて粘り餡様になす
備考 以上の(ロ)(ニ)を比較するに前者は後者の約四倍の功程なり即ち前法を可とす然かして地均しは平鐵三又及土俗蟹を使用す

(五)挿付

イさし方一尺の穂を約六寸の深さ迄さす 其の法先づ頭を斜めに北方に向け裏を

下に向はしむ蓋し斜となすは下部の切口が上層の朽土に富み且空氣流通の良き處に存せしめ根を早生せしむる他方雪害に對する被害を少からしむる爲めなり 然かうして平均苗間五寸到間六寸距離となし即ち坪約百本當りとす
ロ踏付さし付と同時に足にて行はしむ始め之を區別したるも功程大差なく且全部さし付後には土と切口との密着が遅れ爲めに枯損なしとせざるのみならず種子の不便あるを以て文を同時にせり

備考

- (一)穂の採取凡て地元にて嚴選の上購入す
- (二)穂の處置山より來れる穂は直ちに清流に浸し置き午前分は午午前日夕方のものは朝の中にさしつけたり
- (三)人夫の組分前記の如く毎日の出役者少く最大九五最小二五人にて從而組分けの必要もなく主として男は地拵女は挿付に用ひ又さし付に當りては各人の畦特別をなして一方責任を附すると同時に他方功程にも多少競争的たらしめたり
- 三事業總覽 (一)さし木數八万二百八十一本分に二年生床替三千九百四十五本即ち一人當り功程三千六十四本 (二)人夫數總數六十五人内男三十九人(整地)女二十六人(さし)付即ち整地當り工程一畝五歩 (三)經費

イ借地料貳百參拾七圓九拾參錢坪當り拾六錢五厘
ロさし穂代貳拾圓一本に付壹厘五毛
ハ人夫賃五拾七圓貳拾錢即ち整地參拾九圓さし付拾八圓貳拾錢
備考 挿し付一人當り三千本に達したるは到底他に見ざる功程なりと信す

琉球孤島に於ける森林植物に就し (其六) 沖繩國頭佐斗 園原咲也

松屬 適應力強大にして繁殖力旺盛なる松屬の一門は其用途の廣多と近世文化に伴ひ森林の荒廢地方減退とにより世界林野の霸王たり權威者たらんの勢を以て人爲的に不自然的に繁榮頗る盛なり弘法大師は赤松の出現は文明の非なりと千年の昔に洞察せし由なるに今日本多博士の赤松の跋扈と國運の消長なる一論文は時の文豪高山樗牛の注目する所となり赤松亡國論として普く世に紹介せられ其内容を精讀せず標題に驚きたる世人中には赤松を亡國視し其造林を憚り美林の除去をなすもの等あるに至り三村博士と共に其の亡國の固人にあり松に非らざるの誤解を説明し赤松を利用して護國の基を立つべきを論せしむるに至れり蓋し赤松の自然的跋扈は地方の減退を證し此地力回復に意を用ひずして濫伐を恣にするに於ては赤松すら生育せざる竹原草野と化し

鹽ては禿山裸峯となり一方森林荒廢により水源涸渇洪水汎濫山崩地滑等の頻出するに至り亡國の運命を招致す可しと言ふにあり其因松其物にあらす世人の林業に冷淡にして森林取扱の不合理を警告したるなり若しこれ赤松の強大なる繁殖能力を利用するに於て荒廢せる林野崩壞地砂原は化して美林となり農地を保護し森林荒廢による諸害を除き更に赤松林の取扱宜きを得れば固有の陰樹類良樹類の自然的の人為的に繁殖し得べく以つて諸國富強の基をなすと言ふを得べきなり

事林業に直接ならざるも近時大流行の社會主義の如き奪つては其内容を見ずして恐怖されたるもの、一なるべし社會主義なるものが消極的個人主義(予は積極的徹底個人主義に立つ)に反對し人類の平素の共存の永劫と進歩とを理想とする社會本位の主義とすれば吾人は歎近措く克はざるもの我林業及森林の性質が如何社會主義的なるかを思ふものなり誰か森林及林業と社會主義なる論文を起稿しければ

琉球孤島に於ける黒松及琉球松も又本土に於ける赤松と同一の性状を有し跋扈跳躍を逞うれつ、有り

5. くらまつ 黒松
6. あかまつ 赤松

黒松は暖帯の海岸地方を郷土とすれ共温帯北部の海岸迄造林することを得其剛強なる

針葉は潮風に抵抗する力大なり本孤島に於ては大島郡七島の中之島迄天生し大島にては造林方能なる由なるも我沖繩本島の南部及び宮古島に植付けたるものは十年にして尙五六尺に及ばず恐らく熱帯の境域には生育し克はざるものなるべし

我木曾地方にては鬼松と稱し盆栽及庭園木として僅かに過ぎず吾人は各護屋に近々入るの時漸時黒松の赤松に遷り行くを見たり鹿兒島より霧島山に登山するの時同様の現象を見る我琉球孤島にては赤松は屋久島の頂上に天生あるを聞くの時種子島及宮古島に植栽を試みあるも其成果に疑なき克はず庭木として宮古及び種子島に徑一尺許りの物數本を見たり黒松は種子島舊藩に於て特に保護繁殖を計り近時野火の減少及び牧場の廢止により多量の松林を見るに至れり

7. くらまつ 琉球松
7. くらまつ 琉球松

琉球孤島特産の松にして七島の寶島より最南豊郡國島迄生じ近時臺灣及小笠原迄に人工造林行はれつ、有り此は農大教授ドクトルマイアー氏の命名する所又沖繩松とも稱す性状形態赤松と黒松との中間にありとも稱すべき針葉更に長く克く密茂す潮風の強烈にして灌水を交ゆるものには枯ることあり、沖繩本島の南半及其雜島宮古島の如き全く本樹によりて占領せられ他樹を見ること少なし

本樹は其密生地にては輻枝を生ずる事なく二三間の見事なる丸太材を生産し物干竿等に利用せらる、事あり又一ヶ年二段乃至三段の輻枝を生ずる事あり故に輻枝により年齢を知る事困難なる場合あり移植は苗圃に於て苗木の養成困難にして不適當なるも赤松黒松に等しく天然な播種造林により簡易に造林し得、其燒拂地拵跡地に播下したるものゝ如き三ヶ年にして丈余に達するものは老年に至れば傘狀を呈し枝葉數十坪に擴り美觀を呈す里人平松と稱す流歌に

大山平松の枝振りのきやうらさ
大山みやらびの手振清らさ

あり大山は所の名きやうらさは清さにして美しきを言ふみやらびはみ意にして乙女を意味し舞の手振りの美しさを喩へたるなり。利用材も又黒松より輕軟にして赤松より剛強なるもの、如く樹脂を含むこと割合に多し本孤島は白蟻の害甚だしく建築材として余りに利用せられざるも宮古島にては他に用材なきを以て一年乃至數年潮水に浸漬して用ひ害を危れつ、あり床板等にても針付をなさざれば差支へなく近時壁板天井板等に使用さる、に至れり本縣には古來獨特の丸木舟あり松の大材を繰つて作りたるものにて近海の漁業は多く是によりて營まれ又離島間の航行にも用ひらる琉球船は本土のものゝ異なり其形元冠の亂の畫巻物に見る如く形をなし且つ其舳の兩腹に目を有し帆

橋の頂に鳥を附し風向を知り得る装置あり皆松材を以て作られ此爲に要する大材の需用多し此舟は往時遠くマラッカ海峡邊迄浮び支那及び本土にも往來せしものなり。製糖地用の薪炭は主として松樹の枝葉を用ひ其需用又莫大産糖地方に於ける松樹林の經營は周約を極めつ、あり樹徑は未だ試験を試みざるも邦産林樹中最も多量に含まる如ければ將來テレピン油製造に着眼せざる可からず

農地保護としての松樹は四面還海潮風辛く年々暴風の襲來劇しき地方なるを以て防風防潮樹林の唯一のものなり又漁附林として各地に美林を可要經節の産額三百萬斤の製造には多く松材を用ひざる可からず。

要するに我琉球孤島の林業經營は二百年前種子島島等晒林澤正冬基の其領土に施したる如く此黒松の琉球松を本位とし農業水産住宅の保護は勿論、杉、扁、柏、檜其他の重用林木の造林も松樹の保護によらざれば完全に經營し克はざる可く沖繩本島に於ける荒廢せる雜竹山野の回復は是非松の大造林に俟たざる可からず

8. たかねやうまつ
本樹は前者と異なり五等を有する陰樹性の松樹にして單に種子島の北部のみ存じ他の易々に見ず支那及臺灣に播布する種類にして朝鮮松のに似たり

實に翹なく大形食用に供し可く巨大なる美幹をなし北種子村安城立山の山中には七、

王葉松の名を有する大木あり、老樹名木誌に入れある筈なり

建築材箱材等に利用し赤松黒松より優良にして生長も又佳良なれば、大小繁殖を計る可き樹種の一なりとす。

尙松類は一般に材質杉扁柏等の良材に及ばず價格底要なりと雖も其繁殖區域の廣さと生長の早さは島嶼林業に好適し是を本土の需用地乃至臺灣清國等に移出輸送すること本島の森林地方松樹林に比し、陸運の費用を大小省くを得將來木材工藝の進歩に伴ひ耐蟻法加工法等の完成するに至らば松材の價値は益々向上す可きなり

沖繩舊藩時に於ては敷山仕立と稱し各分各字は命じ荒廢せる雜竹林燒拂ひ播種造林をなさしめしが種子島の採取困難なるより多量の大根種子を混じり役人の目を暗まして播下を装へりと聞く、宮太郡三百町歩に近き松の美林あり、大根山と言ふ、舊時多量大根の發生より名付くと言へり

○ 鹿兒島市に近く磯の公園に琉球人松なるものあり、只の黒松なれど、突出せる岬の岩上に生ぜざる老松にして琉球人に關する逸話あり今其稿を逸す他日紹介す可し。

○ 松の琉歌ニツ三ツ

常緑なる松のかほることないさの
いつも春來れば色どまらる

二葉ある松の老木なるまで
おかけほさへみしやれおかですごら

千年へる松もあぐて春なれば
縁さしをいて若くなゆさ
夏やこまを遊びくさなや
平松やとしや和泉前なち
庭の松風やそでに誘はれて
すだくどと拜む十五夜月
仲島の浦の冬のさびしさや
千鳥泣く聲に松のあらし

福井縣挿木苗圃に於ける
事業日誌

五月三日 曇后晴

一、出 役 男五人
二、從業時間 自午前七時至午後七時
三、功 程 排水溝六百三十六間、一人當り工程百十六間弱、但し溝巾一尺深さ平均七寸施行面積一反四畝廿五歩一人當り二畝廿一步弱内仕切一人備考 天候寒く霰さへ加りて工程を阻まる

五月四日 晴

一、出 役 男七人
二、從業時間 自午前七時至午後七時
三、功 程 排水溝五百十六間一人當り七十九間強 但し仕切一人施行面積一反二畝廿九歩一人當り一畝廿六歩弱
備考 泥田の爲め工程小なり

五月五日 快晴

一、出 役 男二、五人
 二、從業時間 自午前七時至正午
 三、功 程 排水溝四百二十六間
 一人當り七十間但し施行面積九畝
 十八分一人當り三畝廿九分強
 備考 好晴の上乾田なりし爲め工程大
 い進捗せり
 午後部子山祭に付休業せり

五月六日 快晴
 一、出 役 男五人
 二、從業時間 自午前七時至午後七時
 三、功 程 排水溝百一十一間一人當り
 七十四間 但し施行面積二畝十八分
 一人當り一畝廿二分 地均し一反五
 畝三分一人當り一畝歩強
 泥粘り法 二畝十八歩入夫二人(二人
 七分宛一人六分)

五月七日 快晴
 一、出 役 三人(男二人女一人)
 二、從業時間 自午前七時至午後七時
 三、功 程 地均し一反四畝二歩人失
 男女五分一人當り五畝十九分弱
 挿付 二千三百三十七本 但内六百三十
 二本吉田技術員分を除きたる實挿數
 にして最優良人夫なり

挿付 一万二千七百三十九本夫男五
 分女四人一人當り二千八百三十一本
 但し踏付け内優良人夫實挿數三千
 六百九十本(最小二千三百八十四本)
 五月九日 快晴
 一、出 役 五人(男五分女四人五分)
 二、從業時間 自午前七時至午後七時
 三、功 程 挿付一万四千三百九本一
 人當り二千五百十六本強
 但し内千七百廿七本吉田技術員分を
 除けり男五分は整地、種配り、及早
 天につき給水に従事 施行面積四畝
 廿二分
 備考 乾きの爲め功程に影響あり

五月十日 快晴
 一、出 役 五、五人(男一人女四人
 五分)
 二、從業時間 全
 三、功 程 挿付一万四千六百四十八
 本一人當り二千三百廿七本但し踏付
 共向千八百四十八本吉田技術員分を
 除けり男一人は給水、種配り、整地に
 従事

備考 床地乾燥凝固の爲め工程進まず
 五月十一日 雨
 一、出 役 九、五人(男一人女八
 人)
 二、從業時間 全
 三、功 程 挿付二万六千六百七十三
 本夫八八八(男)一人女七八八(一
 人)

入當り三千三十一本強但し内一人は
 種配り並に整地(面積二畝分)に従事
 即ち實挿一人當り三千四百四十五本
 挿付(泥粘り法)七百十本夫女二
 分一人當り三千五百五十本
 地拵一畝歩人夫男五分一人當り二畝
 二分但荒打元苗圃跡地にして久して
 放置したる雜草地
 備考 本日は雨天に付床地柔軟工程大
 いに進めり。乃ち實挿一人最大三千
 七百九十九本最小三千三十五本(踏
 付共)

五月十二日 雨
 一、出 役 八人(男五人女三人)
 二、從業時間 全
 三、功 程 地均し二畝十八分人夫二
 人(五人四分宛)一人當り一畝九步
 地拵一畝分人夫男一人(四人宛一人
 六分一人當り二畝歩、地均し(床
 替地)二畝九歩人夫男一人(二人五
 分宛)一人當り二畝九歩、床替二千
 百三十本夫男一人一人當り二千
 三十本但し堀越〇、四人(二人二分
 宛)共即ち植付六分(一人三分宛)
 挿付(泥粘り法)五千二十九本夫女二二
 人一人當り二千二百八十六本弱挿付
 千二十三本夫女八分一人當り一千
 二百七十九本弱

備考 床替用苗は平均一尺五寸重量百
 本に付六貫目見當運搬距離約一町也

五月十三日 雨
 一、出 役 九人(男八人女一人)
 二、從業時間 全
 三、功 程 地ならし(元苗圃地)二畝
 歩人夫男九分(五分一人四分)一人一
 人當り二畝六歩強地ならし一畝廿四
 歩人夫男二分五分一人當り三畝十八
 此地ならし一畝九歩人夫男一人一人
 三人二分宛一人一分二人二分宛)一
 人當り一畝五分強さし付三千二十二本
 人夫女一人一人當り三千二十二本 踏
 付一反十二歩人夫男六分(二人三分
 宛)一人當り一反七畝十分床替一千
 八百十五本夫男一人一人當り一
 千二百十本 整理四反八畝二歩人夫
 男三四人一人當り一反四畝四分強
 但し穂のさし換及踏付補遺其他



杭の原の春より夏

拜啓諸兄益々御清榮御活動の事と奉賀候
 陳者小生二月末奉職致し候受持は理科博物
 に候へども専門は動物學に御座候
 木會は初めての土地に候ま、カルサン姿は
 珍らしくヅラ、カイシの方言をかくし四周
 の風光の美しさには住み心地宜しく候併し

まだ勝手不案内にて採集や調査に多忙を極
 め居り候 扱て御承知の如く本校は博物標
 本殊の外貧弱、設備等も不完全に候に就て
 は精々採集致し至急標本類をも整ひたき希
 望に候 貝殻の物の物にても海岸植物晒葉
 の如き物にても何にても宜しく二品にても
 二品にても福島の御序に御願ひ申し度或
 は遠方の方々は小包にて御出し下さらば
 運賃は此方にて拂ひ申すべく候。木會も六
 月に入りては暖かに相成申し候しかし春は
 東京附近より餘程遅る、は花に現はれ申候
 演習林を中心として採集致し候結果は次の
 如くに候

四月に入りても梅花の外に花らしきもの見
 あたらず杭の原は未だ目覺ざる如くに候
 四月八日。どのさま蛙二匹、圃苗の地中よ
 り現はれ出で。切り株を破り候へば白蟻
 むかですす等多數得候。池の鯉のユラ
 よりはデストマ。溝にてブラナリヤ植物
 は

- タシボ、オフキ 菊科
- キクサキイナグサウ 毛茛科
- ピツチリ、ヒメエンゴグサ 罂粟科
- ワルカノサウ 唇形科
- タチツボスミレ、スミレ 堇菜科
- 四月十五日 黒川渡の上より、タナビロ。 アカウオの悠々と泳ぐが見申候水もぬるみたる爲に候べし
- ヤブエンゴクサ 薔薇科
- ジフニヒトヘ 唇形科

- ハシリドコロ 日茄科
- トサミヅキ 金縷梅科
- キジムシロ 薔薇科
- 権現瀧下にてサンショノウオを得附邊よりエゾスミレを探る
- 四月十六日
- ホトケノザ、キランサウ、サギゴク 唇形科
- ムラサキゲマン 薔薇科
- ノミノツボリ 石竹科
- イヌナヅナ 十字科
- 四月廿日 空は漸く花曇りとなり校庭の櫻三分咲き遊意動くま、に七笑橋より川の右岸を進み路を失ひ川上温泉まで行きかねて歸へり雉二羽飛び出で松林にユスの踊るを見路傍にヤマカ、シニ四匍ひ居り候
- ニリンサウ、オキナグサ 毛茛科
- キツチノボタン、キンポウゲ 百合科
- シヤウジャウバカマ 景天科
- コモチマンチングサ 虎耳草科
- ヤマチコノメ 木犀科
- レンゲウ
- 四月廿八日 演習林にて生徒の造林を見學仕りカタタリの花美しきに見惚れイワカミの蕾も赤く色づき申候
- ヤマブキ、モミヂイナゴ 薔薇科
- カンカフヒ 馬兜鈴科
- ワダサウ 石竹科

省沽油科 馬鞭草科 金粟蘭科 十字科 木犀科 唇形科 薔薇科 虎耳草科 五月二日 岡部校長、山下先生と寝覺、風越、小野の瀧を見物す。鐵道や汽車が景色を破ぶる事甚だしく風越の崖につ、赤く咲きて岩に激する水清く心爽快を覺え申候

五月二日 岡部校長、山下先生と寝覺、風越、小野の瀧を見物す。鐵道や汽車が景色を破ぶる事甚だしく風越の崖につ、赤く咲きて岩に激する水清く心爽快を覺え申候。新くして木會に春は訪れ候五月より六月と進むにつれ氣候は急激の變化をなし落葉松も、檜の若葉も見えらるるに伸び昆虫等も遂に數多くなりたる心地致し候。教員室より遙に駒ヶ岳を望み。日毎に白雪の消えゆくを知りては登山の時の痛快さを思ひ居り候。夏の採集日誌は後

日に譲り諸君の健康を祝して筆を止め申すべく候 早々

林友五月號を見て 岩倉生

今日私は林友の五月號を手にした。さうして徒然氏の「峽中閑話」宇志氏の「來るものは遂に來る」深景氏の「馬鹿者となれ」それから會員の動靜これだけに目を通して見た。そこで私に對し文句を言はして貰ひたい。最初に「峽中閑話」から「半年の形ばかりの實習で最低五拾圓の月収ある電車の從業員」と「數千圓の學費を注ぎこんでやつと四拾五圓の月給にありつく林學士」とを比較した思ひつきは、と思つた、而しながらそれは徒然子などと銘打つて峽中に閑話する程然し呑氣な事柄では決してない、殊に木會林友は小男なれば等といつてゐるあたりは、何かしら私共が侮辱されてゐるやうな氣がした不愉快でならなかつた、林學士でさへ四拾五圓といふ事は直ちに一實業學校出の私共の前途が如何に憐れであるかを最も雄辯に物語つてゐるどころではないが電車從業員の格で樺太滿洲等へ飛んで行けといつてゐるが樺太だつて滿洲だつて、さういふ金が落ちてゐるものではない、要するに氏の考へは官海へ行くのは不得策だといふのだらう、それならば何も樺太や滿洲へ行くまでもなく内地だ

つて民間事業へ入れたい、ではないか亦民間でも社員格で居るかつたら純然たる勞働者となるのも悪くはない、而し茲に大きく國家といふ立場から見ると一つの問題が生れる。實業學校出のものが吾も吾も民間へ入つたら國家は何うなるか。といふことである官海でも實際に仕事をすることは實業學校出だ、それがなくなつたらどうだらう、之は大問題である官海にある實業學校出はもつと一昇進の道を開かれるやうに力強く叫び權利がある國家は又大いに實業學校出を優遇する策に出るだけの義務があり必要があるのでなからうか、孰れにしても私は私共の眞剣であるべき生活問題を徒然な問題、閑話な問題として軽く取扱つてゐることに對して幾分の不滿をもちたい。

○次に「來る者は遂に來る」に移る。宇志氏は所論は私にも肯定される「激勵の先驅者となつて堅實の建設の設計者たり將又指導者たらなければならぬ」とは私共の云はむとする所を穿ち得て私には嬉しい好景氣の時には有頂天になつてゐながら一度恐慌が列來したために政府を呪詛したり攻撃したりする者のあるのは苦々しく、彼等の悲境に落ちた責めの一半は當然彼等自らが負ふべきものたるは明瞭であるが、而して「來たる可き者が來り墜つ可き所に墜ちたる事を以て足許の見えなかつた有頂天に對する天與の一針として寧ろ今日の狀態を

痛快しがつたのは人間の陥り易い弱点を知らず知らず暴露したものであるまいか經濟界の混濁は謂ふ所成金輩を一朝にしてどん底へ墮落せしめたが而しながら經濟界の波動は直ちに私共の生活そのものに反響せずにはおかぬ。今日恐慌來を對岸の火災視して痛快がつてゐるのはそれこそ足もとの見えなれと云ふ誘が免れないものではなからうか。

「馬鹿者となれ」は徒らに文を弄んであると言はれても仕方あるまい、何となれば深景氏は「馬鹿者となれ」と叫びながら「松陰は大馬鹿者だ釋迦基督な馬鹿者の標本だ」といつた、その口の乾かぬ間に「僕だつたらあんな馬鹿の行爲はしたくない」と附け加へてゐる、氏は斯うした矛盾した言を吐いて氏自ら馬鹿者の標本と爲る氣ではなからうか。あんな馬鹿者が世界にうよ／＼出來たらさぞかしお芽出度だらう。勿論私とて深景氏がどんな心持で「馬鹿者であれ」といつてゐるかは容易に想像される、而し同じ皮肉を言ふにしても今少し徹底した條理だつたことがいつて貰ひたい。

○要するに現實は或意味に於て確に行詰りてゐる。而も社會問題や人生問題や變化問題やそれらはどれもこれも極めて切實に深刻に眞剣に論ぜらる可き性質のものであつて此等を論ずるに當つて今少し用意を周到にして健實に徹底的に論じて貰ひたいといふのが私の希望でも又此の拙文を草した動

機でもあるのだ。最後に私は新に就任せられた卒業生諸君に申し上げる。

私は諸君に何事をも語る資格の無きものなるをあまりにはつきりと承知してゐる、而して私にも之だけは安心して言へなと思ふのは「學校と實社會とは全く變つてゐる」といふ事である、これはわかりきつた問題であつて而も最も重要な問題である、實社會は廣い複雑ださうして案外つまらないものだ。諸君は此点に關して煩悶の第一を迎へねばなるまい。諸君は大きな怒るべき幻滅の悲哀が諸君のすぐ眼前にふら下つてゐることを今から考慮のうちに入れておかないこと、者だらうか、就任先が官海に多いのと木村、吉田兩君が私の同郷であるだけそれだけ私の不安も大ならざるを得ない。この点で嘗て蹉跎し今尚苦しんでゐる私は此の點に關して諸君が豫め相當の覺悟を持たれんことを祈らざるを得ない。

編輯者曰く。峽中閑話中電車從業員云々。よ將來三十年の行程また斯の如きか迄は或る雜誌の記事を掲げたるものなり。大學の大男以下行を替へて徒然子の感想を記しありしを續けて活版に附せし故説解を生じたる点あるを認む。

蘇溪音信 横の家主人 深山の奥の木會の谷にも夏は來た。噫美し

き瑞々しい新緑の蘇山、朝は薄霧に包まれて模糊として居る彼方には、雀、日白、日雀、五十雀、鴉、鶯、杜鵑などの鳥類が様々の啼き聲を、恰も一ツのコーラスの様に形作つて、絶えず濁りの無い清々しい空に向つて、それは、此の平和なる谷谷にいつて、二日の安逸を祝福する一ツの祈りの叫びの様に、此の地上の寧靜なる生活を恰も天上に向つて囁く、倦まない永久の報告者の様に聞取れるのである。それも暫し朝暾が嶽の邊より、温い陽光を放射するに至つては、今迄の薄霧も次第に消ゆて、東方の空と、西方御嶽の麓の山々の嶺程の所が、此の温い色に染め出されるのが毎日の行事である。此の親しい味を包んだ恵みの色も見える見られる、此の谷合全部に渡つては、朝な朝な好奇心と恐怖とを以て凝視せられる、あの駒ヶ嶽、二學年になれば登ることの出來ると云ふ自我の高調を覺える此の山は、毎時も熱情的な凝視から次第に山氣の威壓で深い沈界に耽けられられるのである。二ツに分れた頂上は削り立てた峻な、厚い積雪の重みに輝いて居る。其の麓の邊は麗しい紫紺に染め出され、何かしら間斷なく人間の心と恒に連絡のあるが如く脈はくを感ずる此の山の心然うだ天候を知るに尤も著しい移變を有する此の美しい山は、今の三學生は登山を終へて居る。此の恐しい自然に人工を加へた三才の功を研究し盡したのである。山は依然優姿

